

Weekly Michael's News

2017年4月24日発行 No.33

<今週の聖句>

『その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。』(ヨハネによる福音書 20:19~20)

<合言葉は We're Michael Family!! 与えられた命に感謝しつつ、4月の誕生祝福を挙行!!>

先週の金曜日は、礼拝の中で4月の誕生者祝福を行いました。4月生まれの教職員の名を読み上げ、感謝の祈禱を奉げ、そして前田理事長が礼拝に出席されている方(学生も含めて!!)に祝福を祈っていただきました!! 短い時間でしたが、与えられている命の大切さと感謝を覚える大切な時間になったように感じます。

私は昨年から、この神戸国際大学が属している日本聖公会に戻ってきましたが、そこで強く感じるのが「命を大切にしている姿勢」です。今回のような誕生祝福だけでなく、亡くなった事を覚える追悼礼拝、毎週の礼拝でも逝去者の名前が必ず読み上げられ、親族・遺族が集まり逝去者記念の礼拝を行う所が少なくありません。これは様々な形で命が損なわれている時代にあって、とても大切な伝統・文化であると思います。

KIUのキャンパスは春を迎えて、学内の木々や集う小鳥たちの勢いも増して来ています。このような時、今一度与えられた命の大切さを覚え、感謝しながら共に歩みを進めて行きたいです!!



前田理事長と温かい握手を交わす チャペルからもプレゼントを用意



<経済学部ブライダル論でチャペルガイダンス!!「見えないものを感じ取るセンス」とは…?>

先日、経済学部のブライダル産業論という授業で多くの学生がチャペルに集う機会が与えられました!! 主に結婚式などブライダル関係への仕事や就職に関心がある3・4年生が対象となり、失敗の許されない式典を担当する仕事に不可欠な物事を感じ取る力、心のアンテナの話をさせて頂いた所、多くの学生から嬉しい感想が寄せられました。

いくつかを紹介します。「ブライダルに関心があります。KIUにこのような授業があり、またチャペルがある事にも驚きました。今度、昼礼拝にも参加してみようと思います。」(3年生:男子)

「将来、ブライダル関係に進むかどうかは分からないけれど、周りの出来事を敏感に掴むセンスは人生が豊かになるように感じました。」(3年生:女子) キリスト教センターは、様々な形で学生の学び・成長を応援していきたいと思っています!!



多くの学生がチャペルに集いました

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月17日(月) テーマ:「今を生きる」

下村 雄紀(学長)

今日のタイトル「今を生きる」は、言い換えれば「今を精一杯生きているか?」という問いに集約される。人は皆死ぬが、いつ死ぬかは分からない。であるならば、いつか迎えるその「死」の瞬間までを「どう」生きるかが問われるのではないだろうか。その問いの答えは、まず自分が自分の存在意義を見出すこと、死は分からないが、そこまで精一杯に生きようという意欲から始まる。存在感は与えられるものではなく、自分自身で見出すもの。学びは未来の自分への投資だ。与えられた「今」を大切に生きていこう。

4月18日(火) テーマ:「その扉を開けるのはあなた」

伊藤 純子(オルガニスト)

一枚の絵 W・H・ハントの「世の光」を見て欲しい。中央に立つイエスが扉を叩いている。この扉にはドアノブがなく外側からは開けられない、つまり内側にいる私たちが扉を開くか否かにかかっている…そんな有名な物語だ。今日はこのイエスを「新しい世界」に置き換えて欲しい。新しい世界への扉が目の前にあるのに、何だか怖くて心配で逃げていないだろうか?ぜひ目の前のドアノブを手にして欲しい。扉は開かれ、無限な可能性が拓かれるだろう。KIUチャペルで活動する聖歌隊やオルガンの会も、かけがえのない学びや出会いを得るチャンスとなるはずだ。

4月19日(水) テーマ:「ことばがある」

藤倉 哲哉(経済学部)

新しい生活が始まる中で様々な不安、特に友達はできるだろうか…等のコミュニケーションに関わる不安を抱えている人はいないだろうか? これまでに自分の思いが上手く伝わらず、気まずい経験をした人もいるだろう。人の思いは目に見えず、自分から発信しないと相手には伝わらない。特に現代社会は、自分の言葉を全世界に発信できる時代であるが、一度拡散されたニュースは回収がほぼ不可能だ。人々を混乱させるフェイクニュースなるものも蔓延している今だからこそ、真理を伝える手段である「言葉の力」を見極めつつ大切に使いたい。

4月20日(木) テーマ:「バベルの塔とアンチ・グローバリズム」

居神 浩(副学長)

今年の「絵画シリーズ」は、ブリューゲルの「バベルの塔」を紹介したい。旧約聖書が元となったこの絵は、元々単一であった民族が技術発展の中で、神をも超えようとする傲慢さを抱いた事から裁かれ散り散りにされる…そんな物語だ。面白いのが、神の罰が言葉を混乱させる、つまり今の我々から見てアンチ・グローバルなものであるという点だ。そこにどんな意味があるか? 「グローバル」という言葉で世界中が繋がったように思われたが、実際はその背後でお金がものすごい勢いで動き、経済格差が更にひどくなっている。世界中の高層タワーが、人間の強欲と傲慢を示す現代の「バベルの塔」になっていないか…? 7月の大阪公開を楽しみにしている。

4月21日(金) テーマ:「仕えられるためではなく、仕えるために」

前田 次郎(理事長)

先日、私の友人が大学を訪問してくれた。以前、姫路の教会で牧会していた時の信徒で、大学の副学長や国際関係団体の責任者を歴任した後、最後の仕事を考える中でこの大学が目にとまったという。彼の心を打ったのは、大学の大きさや学生数ではなく、この大学の建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」、特に「仕えよ」の部分であった。現在の私たちを取り巻く社会は、恐ろしいほどの無理解が蔓延している。協働より抗争が叫ばれ、与えるより獲得する事、仕えるより仕えられる事を求める風潮が強い。しかしこの友人が世界中を巡って行き着いた答えは「仕える」生き方であり、それこそが人間を本当に幸せにするという確信であった。今日の聖句でも、イエスの口から「仕える」生き方が示されている。この大学に集う一人ひとりが、「仕える」生き方を学び、私たちの未来にとって大きな力の源となる事を願う。(文責:野間 光顕)